

教育セクター支援の光と影

—援助モダリティと教育開発ニーズ—

GRIPS 開発フォーラム勉強会

話題提供
JICA国際協力専門員
横関祐見子

2004年8月2日



教育セクター支援と協力モダリティ

話題提供の際の疑問

- 援助モダリティの進化は**教育支援の質の向上**に役立っているのか？
- 援助モダリティの進化と援助協調は**途上国の教育開発**に役立っているのか？

話題提供のメニュー

1. 援助協調の目指すもの
2. 教育セクターでの援助協調の変遷
3. EFAと援助協調に関する現状と課題
4. 援助協調と教育セクター計画
5. 日本の貢献の可能性

1.援助協調に関する国際的動向(1) 援助協調の目指すもの

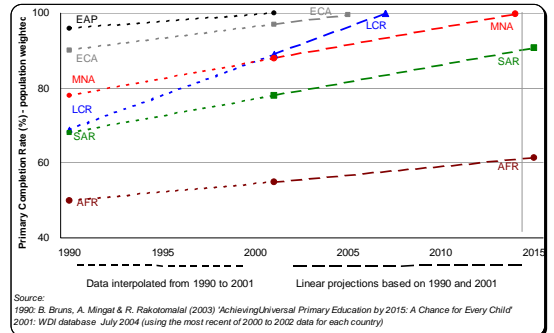
1. 援助効率の促進
2. 効果的な援助(援助の質の向上)
3. EFAを一日も早く達成

戦略

- 教育セクター計画の一本化 セクタープログラム
- 手続きの共通化による途上国側負担の軽減
- 既存の資源を一本化することによる有効活用、効率性
- 国際社会での協調の枠組みと各途上国での協調

EFAを達成するためには 多くの努力が必要

(第5回EFA作業部会 世銀発表資料より)



1.援助協調に関する国際的動向(2) 援助協調のこれまでの経緯

各途上国での動き

援助機関による複数プロジェクトのプログラム化
ドナー会合
共通の手続き
MOU (Memorandum of Understanding)への署名
コモン・バスケット
調達法
マルチセクターへの財政支援

国際的な動き

EFAジョイントイニシアチブ(1990)
DAC新開発戦略(1996)
ダカールEFA世界フォーラム(2000)
MDGs (2000)
モントレー会合(2002)、援助調和化のローマ宣言(2002)
分野別、地域別のドナー会合
EFA上級会合、作業部会
EFA FTI (2003)

1.援助協調に関する国際的動向(3) 援助協調のスタイル

- 複数プロジェクトのプログラム化
- セクターワイドアプローチ、セクタープログラムなど
- 手続きの共通化、MOU
- 情報の共有と対話 (consultation)の強調
- パートナーシップとオーナーシップ
- 説明責任、透明性、ガバナンス

2.教育セクターでの援助協調の変遷(1)

エチオピア

- 90年代後半から急速に進んだセクターアプローチ
- 最初は個々のドナーの複数プロジェクトのプログラム化
- 主なアクター：世銀、Sida、教育大臣
- 手続きの共通化、資金のプール化
- 教育協力を3タイプにカテゴリー化
- 財務省からの通達と、資金協力をしない(on-boardでない)ドナーの会議等への参加の制限

キーワード：急進性、効率性、排他性、セクタープログラムの崩壊、再出発

2.教育セクターでの援助協調の変遷(2)

ガーナ

- 90年代後半から急速に進んだセクターアプローチ
- 基礎教育(小中学校6年間)無償義務化プログラムの法制度化
- 主なアクター：世銀、DFID、教育大臣
- 教育大臣の行動力とカリスマ
- 世銀からの強い支持と支援
- 手続きの共通化、資金のプール化
- 世銀とDFIDの決別
- FTIのための教育計画策定と再出発

キーワード：教育大臣と少数ドナーのパートナーシップ、セクタープログラムの崩壊、政権の交代、再出発

2.教育セクターでの援助協調の変遷(3)

ホンジュラス

- 定期的なドナー会合
- 主なアクター：教育省と援助機関全体
- プロジェクト、プログラム、資金協力を「容認」した教育セクター支援
- EFA FTIを目指しての初等教育協力計画策定
- FTI資金の遅れと教育計画の再検討により、中等教育を含んだ包括的な教育計画策定

キーワード：教育省のイニシアティブ、包括的教育計画、実践的ドナー協調

3.EFAと援助協調の関連(1)

教育協力の増加？

- 二国間教育協力：1990年代から2000年にかけて40億ドルから36億ドルに減少、基礎教育への割合は微増
- 教育以外のセクターからの協力
- 多国間教育協力：世銀の投資額はほぼ一定、EC、UNICEFの貢献の増加、他の機関は減少傾向

3.EFAと援助協調の関連(2)

教育協力の質の変化

- 基礎教育支援の増加
 - 二国間援助機関の支援は19%(93~96年)から21%(97~00年)に増加
- アフリカ地域への集中
 - 2000年で全体の38%
- 他のセクターを通じて教育協力へ
 - 地方開発、貧困削減などに教育協力が入る
- 政策支援的な協力
- Transaction cost を減少する動き(?)

3.EFAと援助協調の関連(3)

途上国の教育の質の変化

- 途上国の教育予算の比較
 - 90年から97年にかけて教育予算の増加、GNP比はLDCでは減少
- 生徒一人当たりの教育予算の比較
 - LDCにおける基礎教育の生徒一人当たりの政府予算は90年と97年の間で変動なし
- 成人識字率の増加
- 初等教育就学者数と就学率、男女格差に関する改善

3.EFAと援助協調の関連(4) FTI (Fast Track Initiative)

- 教育ドナーのグローバルなパートナーシップ
- 途上国がEFAを達成することを目指す
- 23カ国が対象(6700万人の非就学児童)

1700万人の
非就学児童

資金支出国

FTI対象国			資金支出国					
			2004	2005	2006	2007	Total	
Burkina Faso	Honduras	Bolivia						
Mauritania	Nicaragua	Ghana						
Niger	Guyana	Uganda	Netherlands	30	52	58	70	210
Guinea	Yemen	Zambia	Norway	3	3	3	3	12
Mozambique	Tanzania	Vietnam	UK	0	0	9	9	17
The Gambia	Ethiopia	Albania						2
India	Pakistan	Bangladesh						5
Nigeria	D.R. Congo							5
			TOTAL	37	56	71	82	246

5000万人の
非就学児童

3.EFAと援助協調の関連(5) 各国の戦略目標への貢献

いくつかの問題点

- 教育機会とマネジメント偏重
 - 教育の質への貢献の不足
- EFAの中で小学校教育のみに集中
 - 成人識字教育が基礎教育から乖離
 - ノンフォーマル教育の有効性への認識の低さ
 - 中等教育開発の必要性への認識の低さ
- 政策の未決定
 - 小学校教育の無償化 vs 受益者負担

3.EFAと援助協調の関連(6) パートナーシップとオーナーシップ

- 洗練された援助機関の専門性主導の動き：「誰のルールでゲームをするのか？」
 - MTEF, PRSP, FTIなど
 - 途上国側の主張は十分に聞かれているか？
 - 途上国側に「自分の計画である」という認識はあるのか？
- 途上国政府のキャパシティの課題
 - 教育省の能力
 - 地方分権と地方教育省の能力育成の必要

4.援助協調とセクター計画(1) 教育セクターの包括的計画の重要性

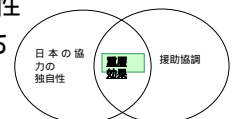
- 教育セクターにおけるサブセクターの相互関連性
 - 教材開発や教師教育で初等教育に貢献する高等教育
 - 初等教育の質の向上と中等教育の関係
- バランスのよい包括的計画の必要性
- 戦略的な資源の活用
 - 既存の資源の有効活用
 - 「幽霊教員」等をなくすための努力
 - 地方分権化による効率性と透明性の確保

4.援助協調とセクター計画(2) 教育セクター計画策定

- ステークホルダーの役割
 - 教育省主体、援助機関に求められる「節度」
 - オーナーシップの確保
- ステークホルダーの政治学
 - 専門性の定義
 - 政府と援助機関の関係
 - 中央政府と地方政府の関係
 - 学校から始まる教育開発計画
 - 地方分権と参加

5.日本の貢献の可能性(1) 日本の立場と現状

- 技術協力の「伝統」
- Capacity Development(CD)の観点
- 日本自身の開発経験の活用
- 日本の「開発哲学」
- 教育協力関係者の多様性
- 援助協調に乗り遅れがち
- 情報量の不足



5.日本の貢献の可能性(2)

包括的アプローチのススメ

- プロジェクトの重層効果
- 「進化した」プロジェクトと資金協力の組み合わせ
- プロジェクトで造り上げる成功例、資金協力による普及、成功例に根ざした政策アドバイスによる制度化、教育開発の環境整備

